

不燃管太郎M

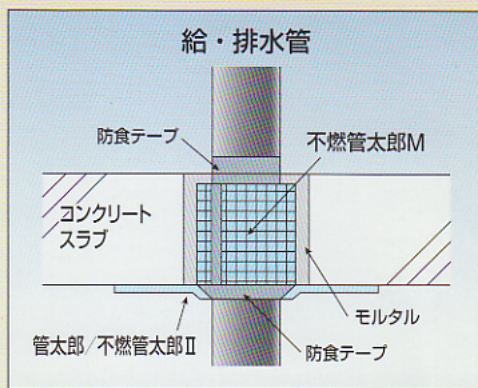
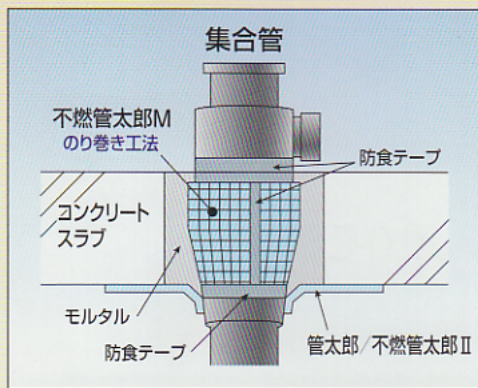
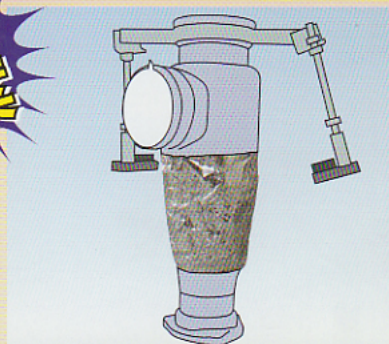
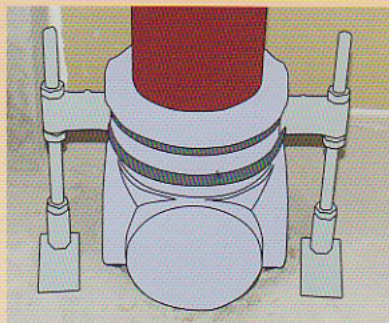
集合管のスラブ貫通口はモルタル充てんが一般的ですが固体伝播音・振動音の原因となっています。不燃管太郎Mは集合管に巻きつけて絶縁帯をつくり躯体コンクリートに伝わる振動を80%以上低減させます。＝外部建築研究所による実測値＝

基材

ガラス繊維ロックウールフェルト



VE提案



規格・梱包

形状	巾	長さ	梱包単位
集合管100φ用 ④	150	550	100枚
集合管100φ用 ⑤	200	600	100枚
集合管125φ用 ⑥	200	700	100枚
集合管100φ用 ⑦	300	600	100枚
デカサイズ(カット用) ⑧	960	1000	20枚

上記以外のサイズはご相談ください。

サイズの決め方

巾 = スラブ厚さ

長さ = 集合管の最大部直径 × 3.14 + 65mm以上(不燃管太郎Mの厚さ分)

施工方法

離型紙をはがして、のり巻き状にまきつけ、防食テープで固定して下さい。デカサイズ(カット用)はカッター、鋏などで適宜切断して下さい。(必ず防塵メガネ、防塵マスクを着用)

離型紙はカッターで切れ目を入れるとがしやすくなります。

材料構成

アルミ箔

ガラス繊維ロックウールフェルト 10mm (150kg/m³)

粘着剤層

離型紙

基材の不燃材 認定証

防火区画貫通口に関しては所轄消防機関へご確認下さい。

施工手順例



※防水処理は現場仕様に従って下さい。

不燃管太郎M

振動低減

80%
以上

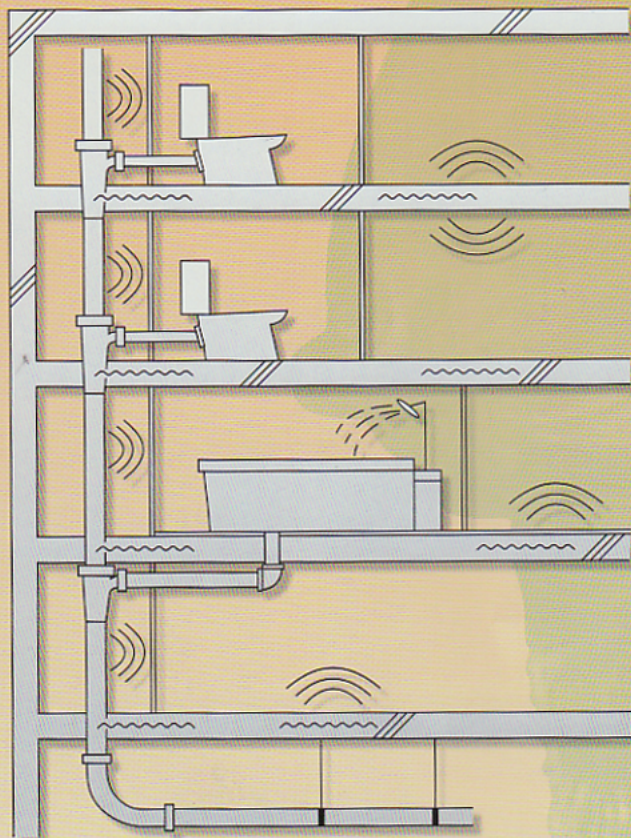
排水や流水音の発生 原因のメカニズム

排水管の中に水や固形物が流れることにより、配管自身が振動して音が出ます。同時に貫通するコンクリート躯体へもその振動が伝わります。

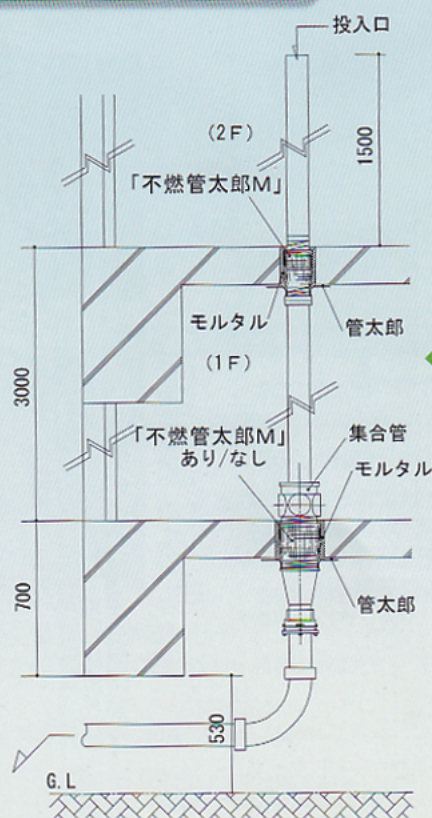
配管がパイプシャフト内に配置される場合は、発生音はそこで遮蔽されます。しかしコンクリート内に伝わった振動は、いろいろな部分に伝わって音として部屋に出てきます。

このように躯体コンクリート（固体）を伝わってから音となることから、固体伝播音と言われています。

測定方法：JIS A1429-2007に準拠
測定機関：外部建築研究所

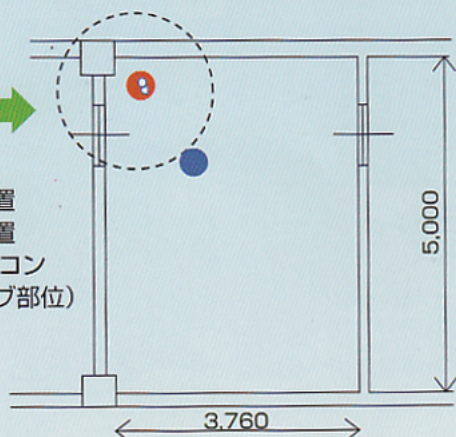


測定概要図

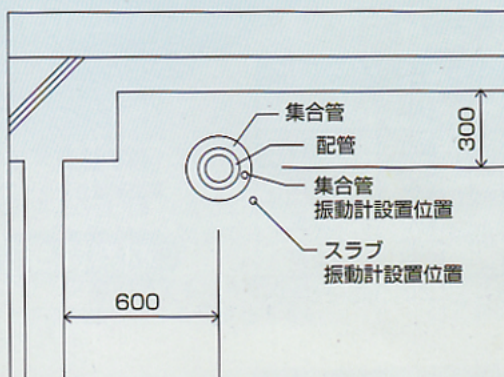


測定の平面図

- ：集合管位置
- ：騒音計設置位置
- ：振動計設置位置
(集合管部位/コンクリートスラブ部位)



測定の断面図



振動計設置 位置拡大図

絶縁効果を振動測定により確認

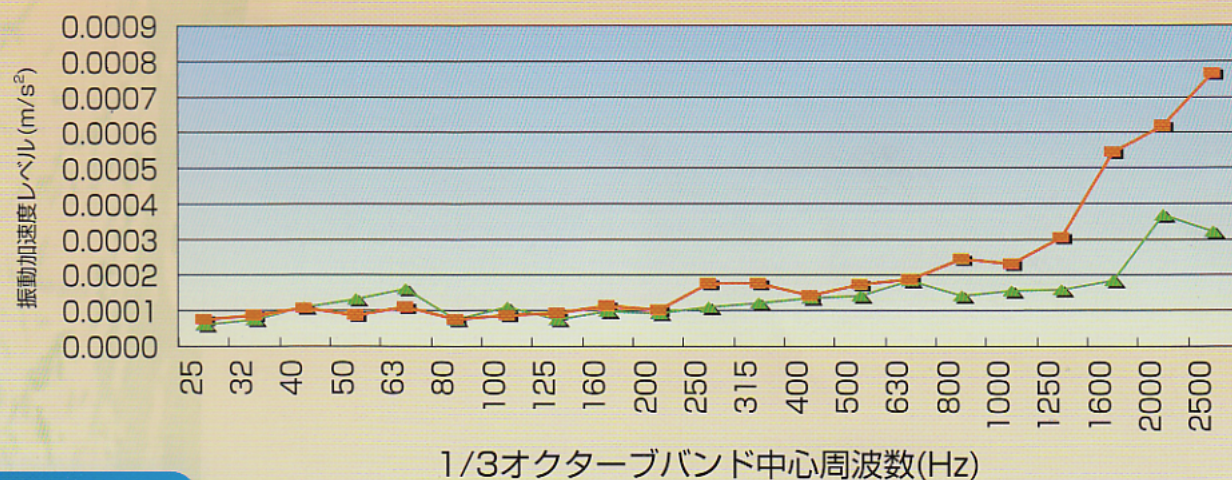
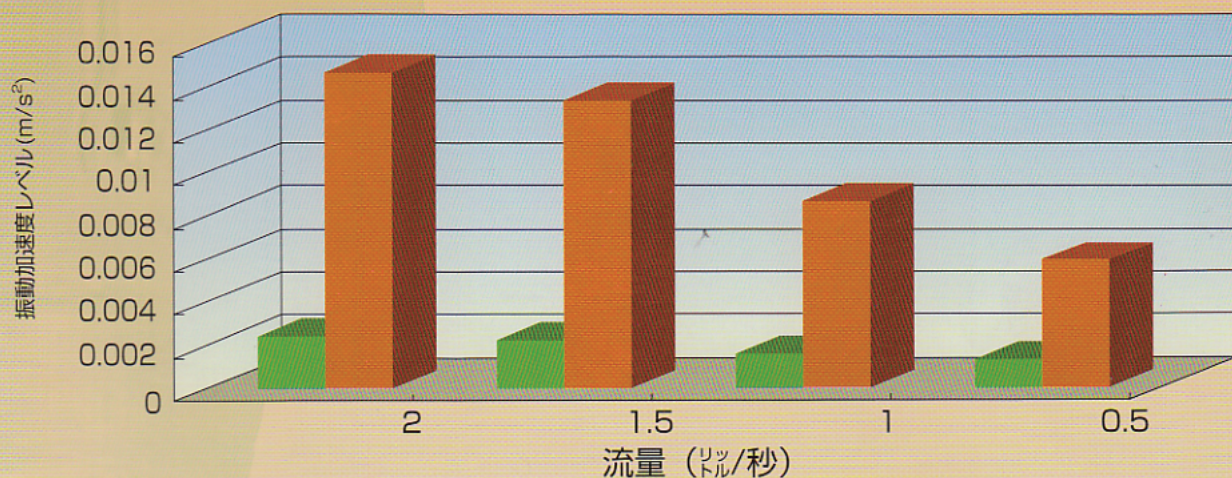
躯体コンクリートに伝わる振動を80%以上低減

このデータは当社仕様による外部建築研究所の実測値であり、性能を保証するものではありません。スラブ厚、壁構造、環境などにより左右されることをお含みください。

測定条件 不燃管太郎Mを使用した試験体はスラブ上面の集合管周囲に20mmのモルタルを充填

■ 不燃管太郎Mあり
■ なし

流水の場合



排水の場合

